

記載例 1

実 測 平 面 図 (1 / 2)

A3規格1枚で記載できない場合

土地の所在・地番

申請土地所在地と同様の地番を記載
〇〇市〇〇町〇〇丁目10番

国道管理点名で記載
点名が管理点名と異なる場合は、
国道管理点名を()書きで記載

座 標 求 積 表

地 番	10			
測 点	Xn	Yn	(Xn+1 - Xn-1) Yn	距 離
K1	-00000.000	0000.000	00000.000000	9.470
HR11112 (R11112)	-00000.000	0000.000	00000.000000	1.078
K4	-00000.000	0000.000	00000.000000	16.438
K6	-00000.000	0000.000	00000.000000	10.548
K9	-00000.000	0000.000	00000.000000	16.438
		倍 面 積	000.000000	
		面 積	000.000000	
		地 積	000 00 m ²	

多 角 点 座 標 一 覧 表

測 点 名	X 座 標	Y 座 標
00A00	-00000.000	0000.000
00A00	-00000.000	0000.000
0A000	-00000.000	0000.000
T1	-00000.000	0000.000
T2	-00000.000	0000.000
T3	-00000.000	0000.000
T4	-00000.000	0000.000
T5	-00000.000	0000.000

使用基準点座標を記載
既知点として使用した国道基準点
及び街区基準点等の座標値も記載

国 道 境 界 点 座 標 一 覧 表

測 点 名	X 座 標	Y 座 標	備 考
HR11111 (R11111)	-00000.000	0000.000	コンクリート杭
HR11112 (R11112)	-00000.000	0000.000	金属標(プレート)
HR11113 (R11113)	-00000.000	0000.000	計算点(境界標なし)

方向点として確認した国道管理点の座標値も記載
申請地対側の座標値は記載しない

引 照 点 座 標 一 覧 表

引 照 点	X 座 標	Y 座 標	引照点の種類
T1	-00000.000	0000.000	刻印
T2	-00000.000	0000.000	金属鈔

引照点を設置した場合は引照点の座標値を記載

杭の種類

田	コンクリート杭
区	プラスチック杭
区	プレート
⊗	金属鈔
●	計算点
△	基準点

杭種の凡例はこの限りではありません

座標系を記載

本測量図は、世界測地系により測量されたものである	
測量の年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日

断面の場所と向きが分かるよう記載

横断面図は、申請土地の両端部の断面を基本とするが、
端部付近に国道管理点があれば管理点の断面(申請地側にある場合)
申請延長が長い場合は、中間地点の国道管理点断面を適宜追加

申請地対側の辺長は記載しない

国道〇〇号“線”は不要
国道〇〇号

国道敷内の地番は記載しない

境界確認を行った方向点
までの辺長を記載

申請箇所を朱線で記載

10
申請地
申請地と記載
複数ある場合は
申請地番全てに記載

国道管理点名で記載
点名が管理点名と異なる場合は、
国道管理点名を()書きで記載

周辺の基準点位置(引照点位置)を記載し、全体が
入らない場合は網図を実測平面図2/2のように記載

※横断面図の幅員について
横断方向上に障害物がある場合は、中央分離帯や歩道まででもよい。

縮尺は1/500以上

作 製 者

〇〇市〇〇町〇〇〇〇番地
土地家屋調査士 〇〇〇〇
(令和〇〇年〇〇月〇〇日 作製)

印

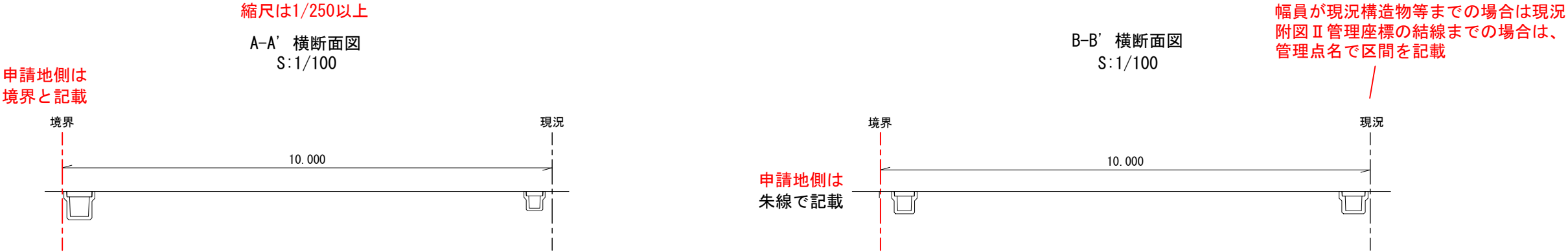
縮 尺
1/250

記載例 1

実 測 平 面 図 (2 / 2)

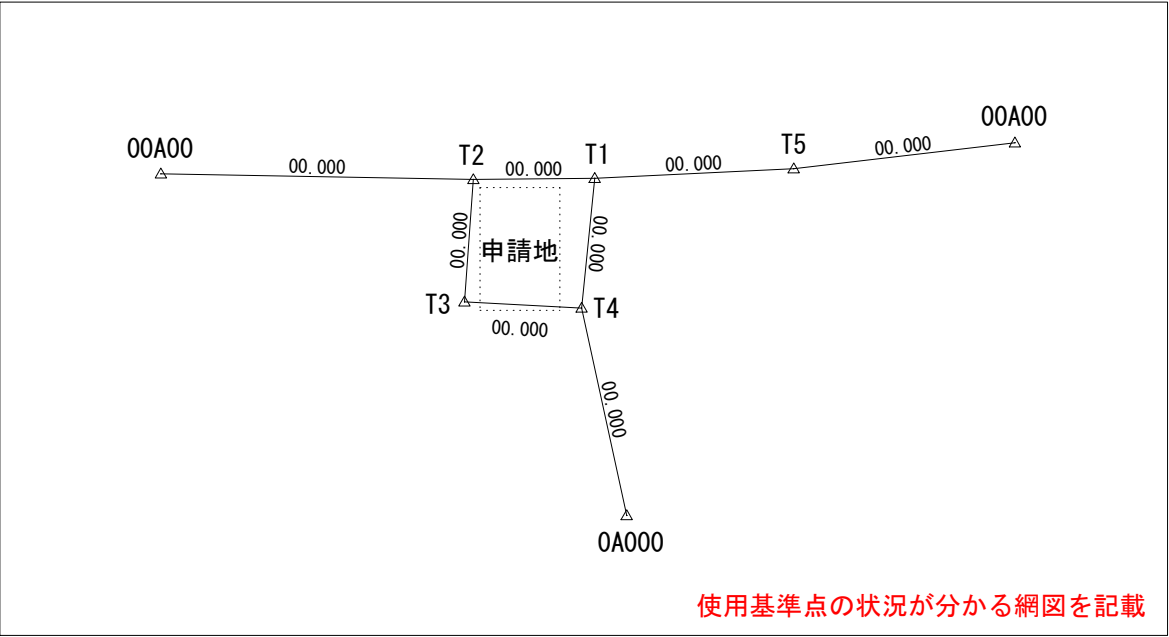
A3規格1枚で記載できない場合

土地の所在・地番	申請土地所在地と同様の地番を記載 〇〇市〇〇町〇〇丁目10番
----------	-----------------------------------



※横断面図の幅員について
横断方向上に障害物がある場合は、中央分離帯や歩道までもよい。

多角点網図 ※基準点位置（引照点位置）全体が実測平面図に入る場合は不要
(縮尺：1/1000 単位：m)



作 製 者	〇〇市〇〇町〇〇〇〇番地 土地家屋調査士 〇〇〇〇 (令和〇〇年〇〇月〇〇日 作製)	印	縮 尺 図 示
-------	--	---	------------

※本例は道路管理上必要となる一般的な内容を記載した図である為、申請地の状況により本例とは別に必要となる内容の記載をお願いする場合があります。

添付資料例

境界立会後は、必要に応じて下記に該当する計算書を提出して下さい。
※計算書は実測平面図内には記載せず、確認書にも綴じこまないよう別途提出して下さい。

【座標変換を行った場合】

日本⇒世界変換計算書

・変換係数
回転角 0-00-00 距離比率 1.000000
・誤差
平均二乗誤差 M X = 0.000 標準偏差 0.000
M Y = 0.000

・参照点列								
参照点 1	X座標	Y座標		参照点 2	X座標	Y座標	誤差 X	誤差 Y
N0.00	-00000.000	0000.000	====>	KN0.00	-00000.000	0000.000	0.000	0.000
N0.00	-00000.000	0000.000	====>	KN0.00	-00000.000	0000.000	0.000	0.000

・変換点列						
変換前	X座標	Y座標		変換後	X座標	Y座標
R11111	-00000.000	0000.000	====>	HR11111	-00000.000	0000.000
R11112	-00000.000	0000.000	====>	HR11112	-00000.000	0000.000
R11113	-00000.000	0000.000	====>	HR11113	-00000.000	0000.000

【国道の境界線上に筆界を設置した場合】
(筆界の計算書は、垂線計算・交点計算・線上点計算等状況に応じて線上点の確認ができるもの。)

2点間 距離・方向角 及び 垂線距離

測点 A	測点 B	測点 P	方向角 (A-B)	距離 (A-B)	垂線距離	距離 (A-P')	距離 (B-P')	P位置	P'位置
HR11111	HR11112	K1	90-00-00	20.184	0.000	10.714	9.470	左	A - B 内
HR11112	HR11113	K4	90-00-00	21.122	0.000	1.078	20.044	右	A - B 内